

歴戦女戦士の

女スイッチ





■オリーヴァ

オーガ族の女戦士。

厳しい男性社会のオーガ族の中あって
最強の女性部隊を束ねた歴戦の猛者。

その強さは男性でも太刀打ち出来ず
ドラゴンを一人で倒した等の逸話もある。

「女の自分よりも弱いくせに男という理由だけで
何故自分が下に扱われなければいけないのか」
と圧倒的男性有利な部族の風習に納得できず
女性としては高い地位を獲得しているにも関わらず
部族から離れ人間族の駐屯地で指南役を務める事に。

人間族の風習の中で男女の格差も無く
穏やかな日々を過ごしていたオリーヴァだったが
普段自分の身の回りの世話を丁寧にしてくれて
悪からず思っているトッドにひよんな事で可愛いと言われる。
それまで戦いの中で生き部族の男性から軽視されて来た
彼女は生まれて初めてそんな事を言われて
ひどく動揺してしまうのだった。

ここは国境沿いの駐屯地
人間族とオーガ族の国の
境界に位置している

よし!!
今日の訓練は
これにて終了!!!

ありがとう
ございました!!

オリーヴァさん
今日も稽古
お疲れ様でした
これで汗を

おっ:
すまないな!

この人はオリーヴァさん
オーガ族の戦士だ

オーガ族には優秀な
女性だけの部隊があつて
その部隊にはどんな精鋭でも
歯が立たないと有名だった

その部隊を率いていたのが
このオリーヴァさんなのだ
なんとドラゴンを一人で
倒したなんて噂もある

俺はオリヴァさんの
身の回りの世話役を
任されてるトッド

オリヴァさんに憧れて
自分からこの役を
買って出たんだ

俺は辺境にある山と森に囲まれた
村の出身なんだけど
その村では時々魔物が:
時にはグリフィンなんかも現れて
家畜に被害が出たりしていた

だから俺も自警団に入ってたんだけど
ちゃんとした戦いの技術を
身に付けようと国の兵役に志願した

でも俺には戦いの才能が
全然無いみたいでこの
駐屯地に派遣されても
結局やらされたのは雑用ばかり

早くこっちにも
荷物運べよ

はい!

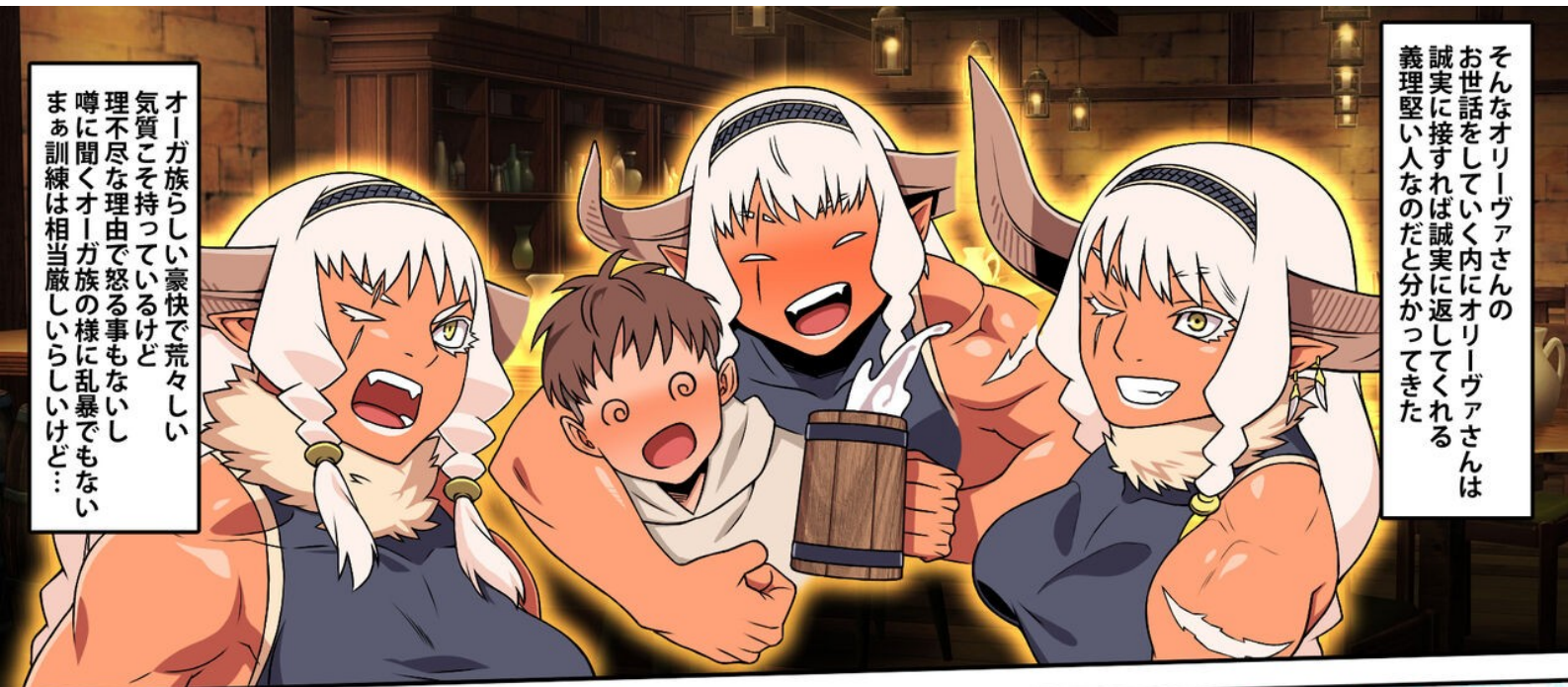
そんな時戦術指南として
やってきたのが
オリヴァさんだった

名の知られた戦士がやってきたという事で
皆が湧き立つ一方オーガ族は好戦的で
気性が荒いと有名だから怖がる人もいた

でも俺はオリヴァさんの
力強く気高い雰囲気
一気に引き寄せられたんだ

そんなオリヴァさんのお世話をしていく内にオリヴァさんは誠実に接すれば誠実に返してくれる義理堅い人なのだと分かってきた

オーガ族らしい豪快で荒々しい気質こそ持っているけど理不尽な理由で怒る事もないし噂に聞くオーガ族の様に乱暴でもないまあ訓練は相当厳しいらしいけど……



そしてたまに目にする普段の力強さとは違った女性的な魅力にも俺はドキドキしこの人をとっても尊敬していた



前から気になってたんですけどオリヴァさんはどうしてここに指南役に来ようと思ったんですか？

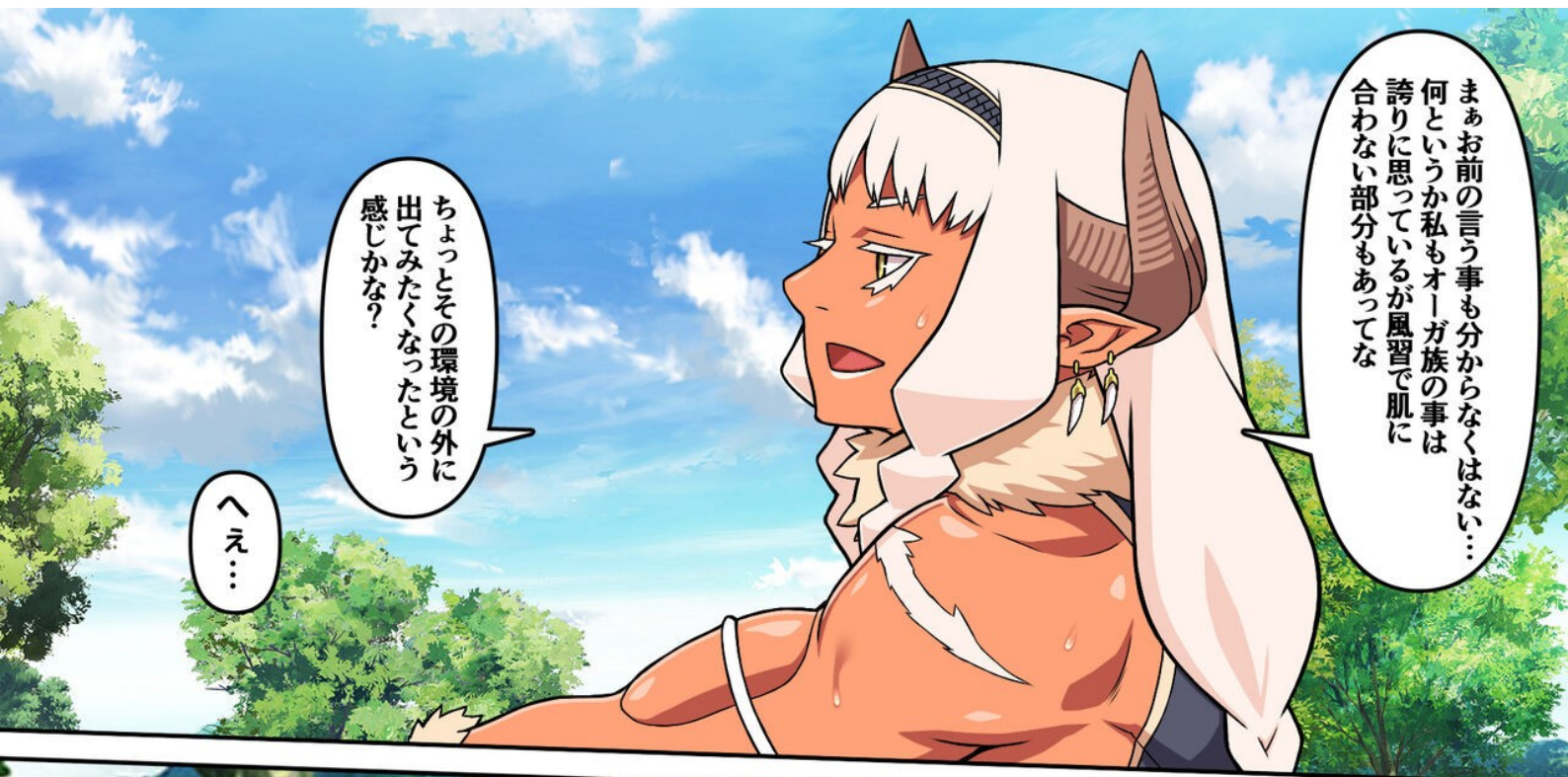


いえ……俺だってお会いする前からオリヴァさんの名前を耳にする事があったんですけど

そんなに有名なオリヴァさんなら本国ならもっと何て言うか……高い地位と言うか良い暮らしが出来るはずじゃないかって思ってた

ああ……そういう事か





まあお前の言う事も分からなくはない…
何というか私もオーガ族の事は
誇りに思っているが風習で肌に
合わない部分もあってな

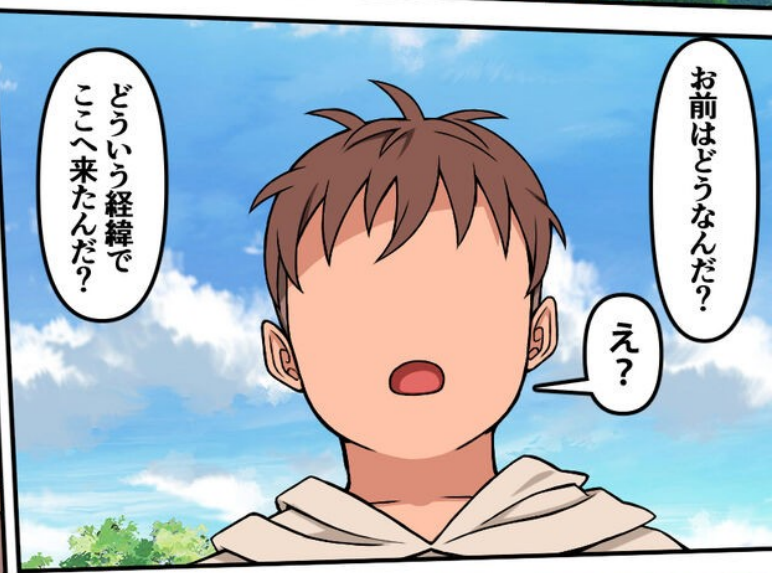
ちよつとその環境の外に
出てみたくなったという
感じかな？

へえ…



……とまあ
カクカクシカジカで
兵役に参加したもの
戦いに向いてないらしくて

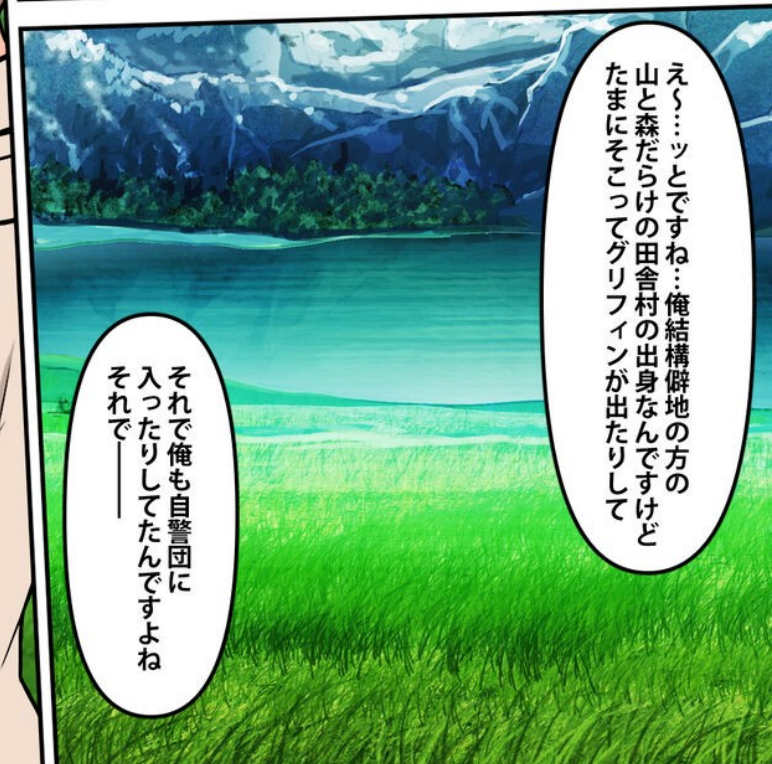
はははッ
だから雑用係に
されたと



お前はどんなんだ？

え？

どういう経緯で
ここへ来たんだ？



えく…ッとですね…俺結構僻地の方の
山と森だらけの田舎村の出身なんですけど
たまにそこってグリフィンが出たりして

それで俺も自警団に
入ったりしてたんですよ
それで――

でもお前の仕事は丁寧で
痒いところにも手が届く
私はとても助かっているよ

本当ですか!?
俺嬉しいです!!

それにしてもオーガ族の
私の世話を希望するなんて
お前も変わった奴だよな
いくら女だといっても
人間族より体臭も濃いいし
色気などもないだろうに

熊みたいな
ものだら

いや!そんな事
ないですよ!!
俺オリーヴァさんを
尊敬してますし

それにふとした時に
とても綺麗でその…
可愛いですし…!!

あつ…すいませんつい
生意気な事を言ってしまったて…
こんな言い方失礼でしたよね…

本当すいませんでした!!
部屋掃除してきますッ!!

……

!?

何?可愛い?
私が可愛いだと?

ヒキッ



「可愛いだど…私が…？
そんな事生まれて初めて言われたな…
厳しい男性社会の我が部族…
男を立てるのが女の務めであり栄光…

今まで「お前は俺に相應しいや
「俺の隣に置いてやる」なんかは
言われた事があったが
まるで装飾品になれと
言わんばかりだった…



何だ…この胸の奥が
ギューッと握りつぶされそうな
感覚…動悸も激しくなつて
息も少し苦しい…しかし…
嫌ではない…

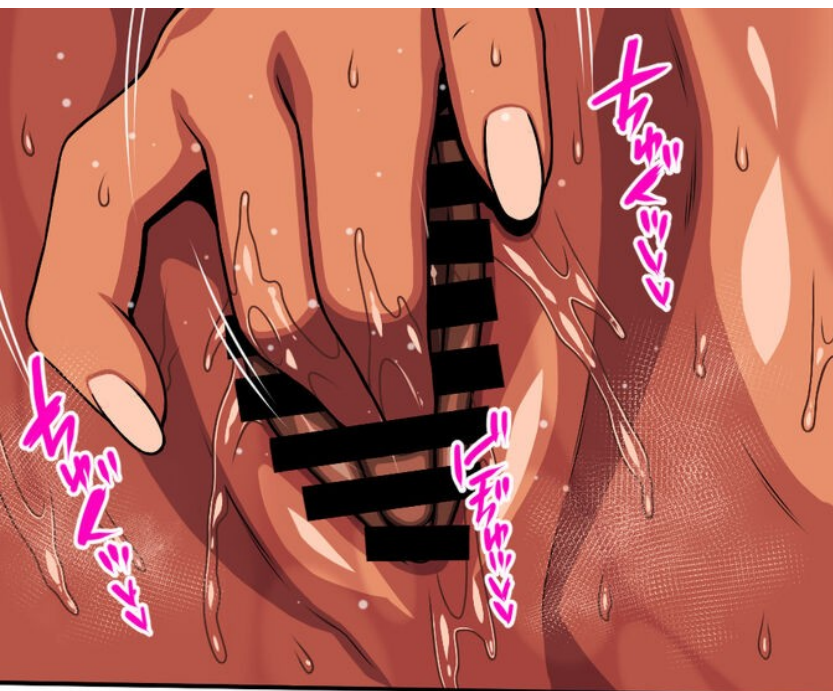
これは…喜び？
私は今可愛いと言われて
喜びを感じているのか？



そんな私が可愛い…
可愛い…か…

ただ女の私よりも弱い男に
そんな事を言われるのが納得いかず
相手にもしてこなかったが…

その夜――



自慰など普段は しないのに...

それにただの自慰なのに
こんなに感じるなんてッ…
体が喜んでるのかッ

可愛いと…女性として
魅力的と言われた事にッ
んッ…イクッ…またイクッ
しまッ

もう三回目なのにッ…
またッ…こんなに感じて
イクッ…

可愛い

可愛い

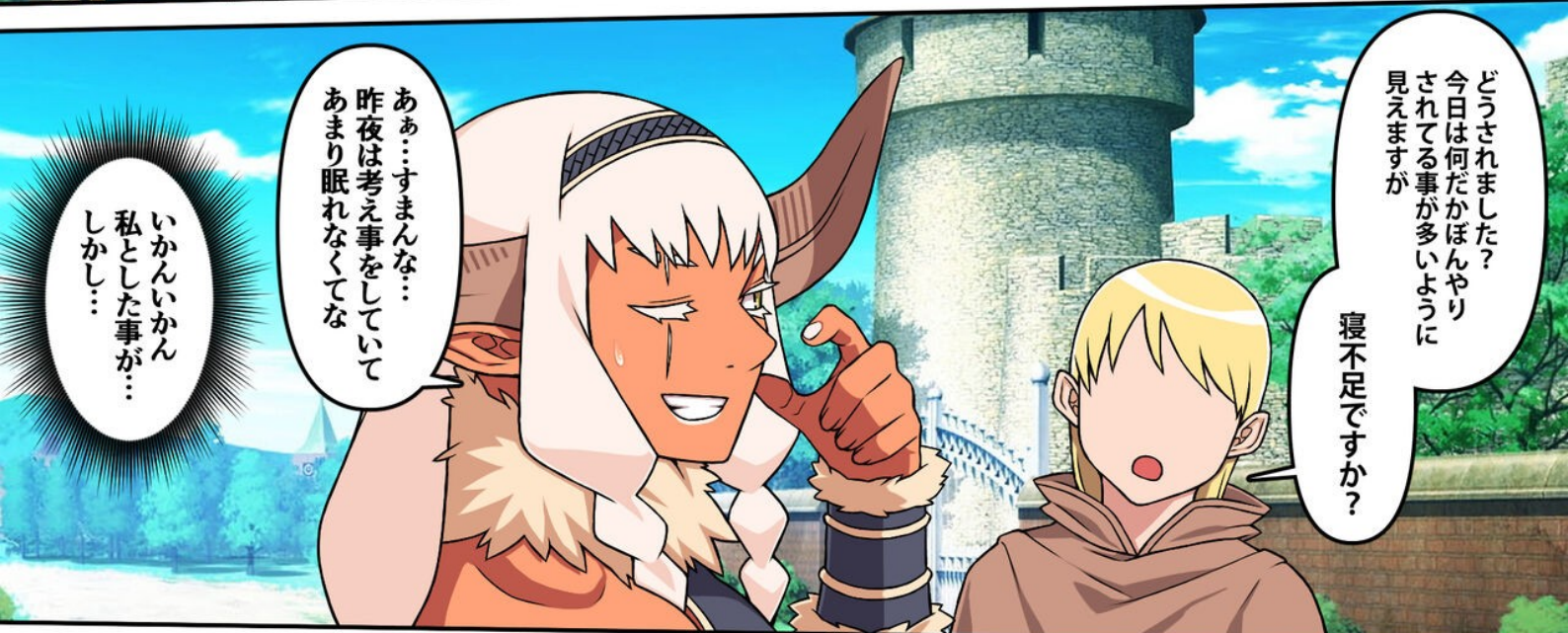
可愛い

可愛い

あッ
♡

ふぐううッ♡♡

翌日――



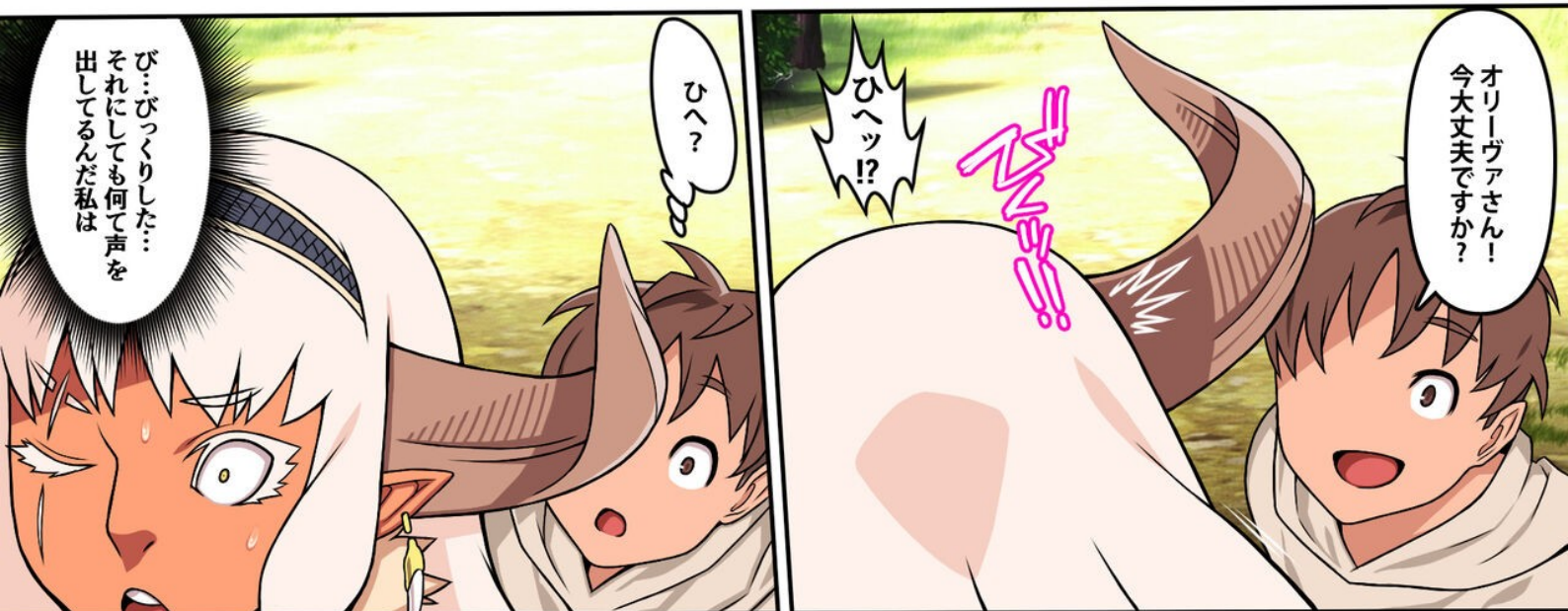


ダメだダメだ!!
今は訓練中だ
訓練に集中だ

ひふー

たっ

たっ



び...びっくりした...
それにしても何て声を
出してるんだ私は

ひふ?

ひへっ!!

ズン!!

オリヴァさん!
今大丈夫ですか?



どうした?

今晚のご飯何が
良いかと思いまして
何かリクエスト
ありますか?

そうだ!大きくて
良いイノシシが
捕れたそうですよ



その日の深夜――



はい？
どなたですか？

コソ

コソ

私だ…
ちよつと良いか？



え？オリヴァさん？
どうしたんですか
こんな夜中に？
今開けますね



え…オリヴァさん
どうしたんですかその格好…

え…今鍵閉め…
オリヴァさん？



ドギツ



わッ...!?

すまんッ!!
トッド!!



す...



お...俺がオリーヴァさんに
言った事...ですか?

お前に言われた事が
昨日からずっと頭に残って
眠れないんだ...

私の事綺麗で可愛いって言ったよな
私が可愛いって言う事は
お前は私に対して女性として
魅力を感じてるって事で良いんだよね?



えッ!? えッ!?
オリーヴァさん?

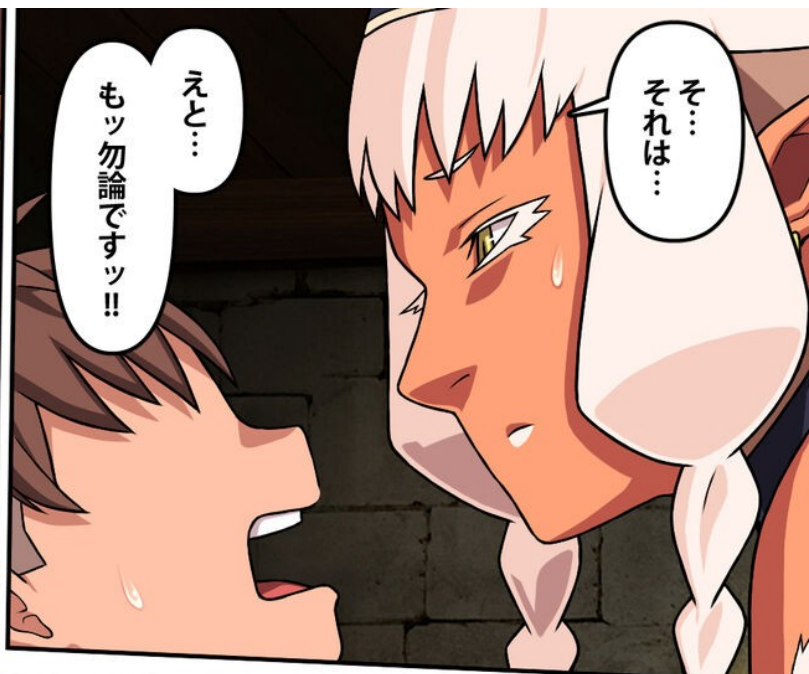
しッ...静かに
してくれッ

突然すまない...
だが私にはこんなやり方
しか思いつかなくて...



じゃッ…じゃあ私を
女性として…
抱けるか？

えッ!?



そ…
それは…

えと…
もッ勿論ですッ!!



でッ…でもッ…
俺なんかそんな
恐れ多い事…
流石に…

いゅあ…いゅあ…

オリヴァさん…いつもの
獣っぽい体臭じゃなくて
熟れた果実みたいな甘ったるい
濃い匂いがする…もしかしてこれ
オーガ族の発情臭!!
まさか…オリヴァさんが…
俺に!?

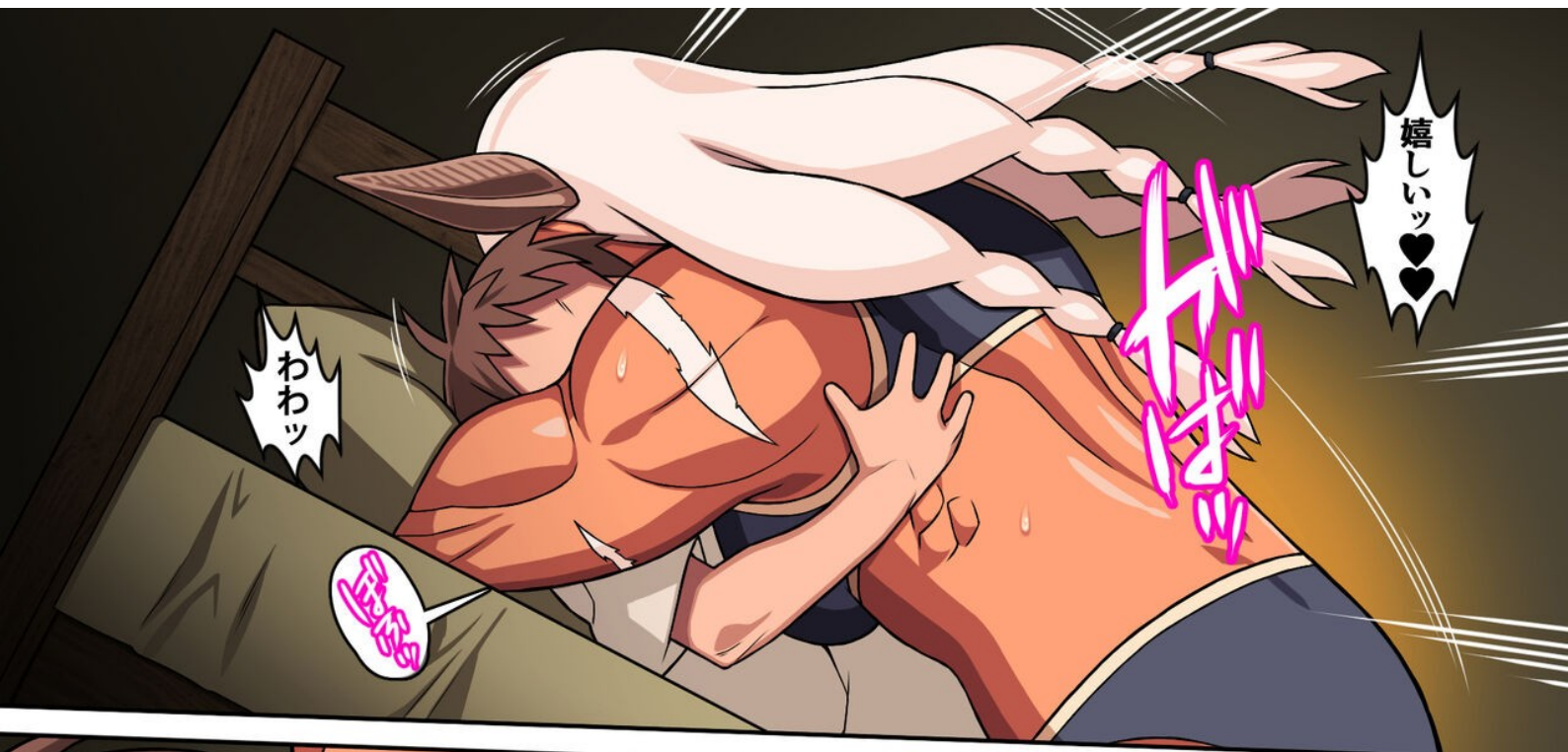


そッ…そんな事ないです!!
オリヴァさんはめちゃくちゃ
魅力的な女性ですッ!!

俺ずっと憧れててッ…



嫌…か？





オーガ族のセックスは
野性的でめちゃうくちや
激しかった

オリヴァさんは
激しく食べるように俺に
キスをし太い舌を
ねじ込んできた…



野性的に全身を
くまなく舐め回され…

これが
お前の味…

匂い…♡

凄く密度の高い肉圧…
オリヴァさんの体臭…
そして汗が俺を包みこんでいた…

乳首ッ

はひッ

むわああああ
レレレレレ



最高ですッ!!

んんッ...ダメッ...
そこ...オーガ族は体臭が
強くてその...臭いからッ

そんな事無いですッ!!
俺オリーヴァさんの
匂い大好きですッ!!
凄く良い匂いですッ!!



私:魅力的か?
綺麗か?可愛いかな?
はしたなくないか?

オリーヴァさんッ
凄く魅力的ですッ
力強くて荒々しい所もあるのに
こんなに綺麗で可愛くて...



胸も吸ってくれッ♥♥♥
乳首噛んでッ♥♥♥

むにゅん

噛んでッ♥♥♥

もっと強くッ♥♥♥

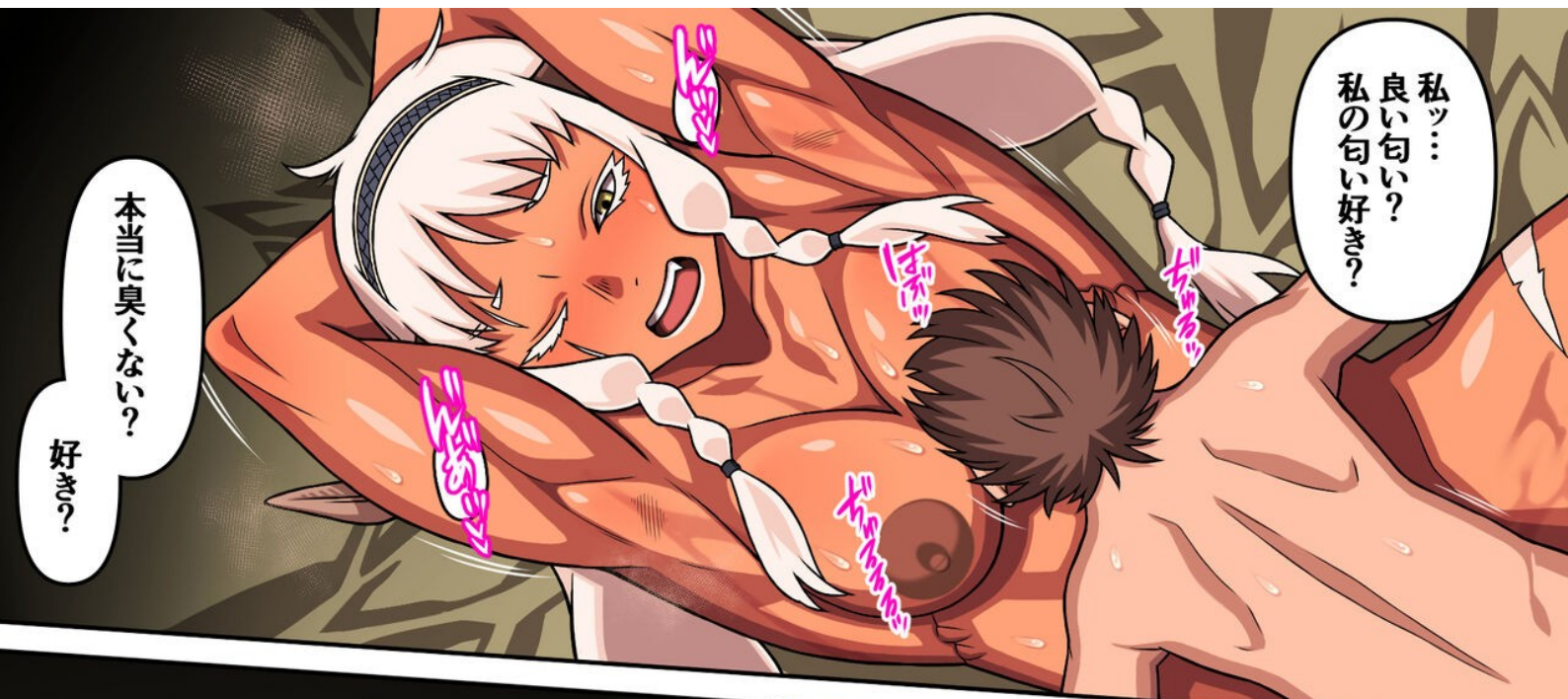


好き?
私の匂い好き?

なら...
もっと嗅いで♥♥♥
もっと舐めてえッ♥♥♥

むにゅん

れっ



私ッ：
良い匂い？
私の匂い好き？

本当に臭くない？

好き？

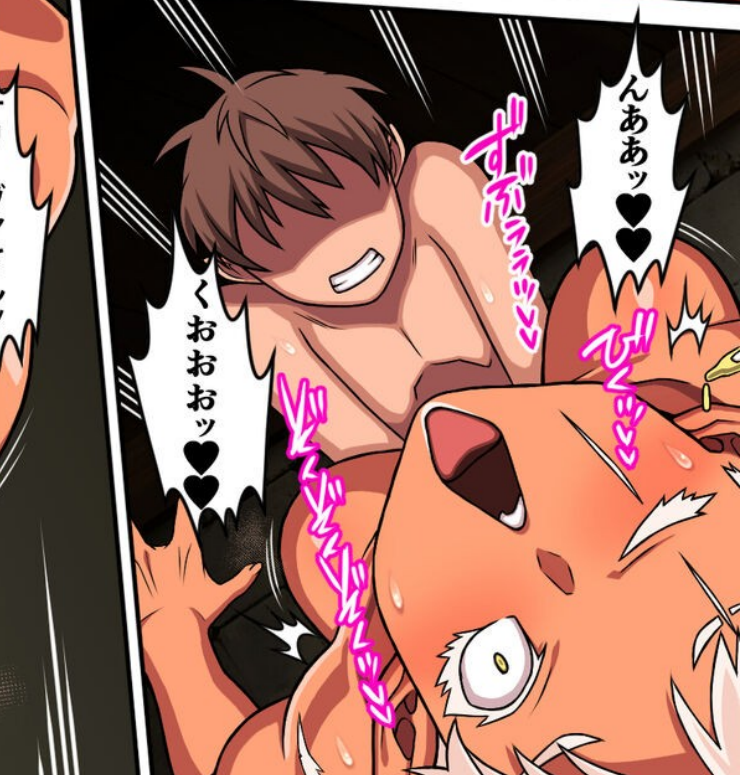
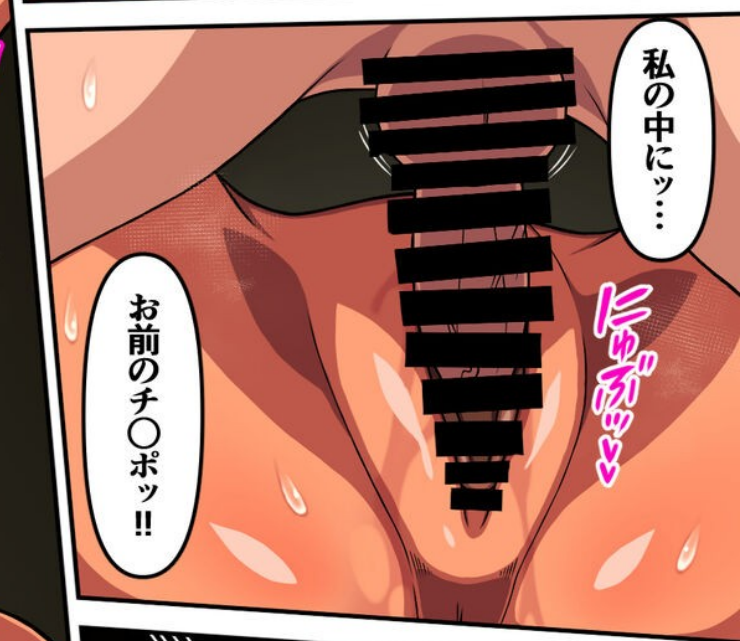


んんんんんん♡♡♡



めちやくちや
良い匂いですッ!!
濃厚な甘ったるさに
汗の匂いが混じって

凄くチ○ポがムズムズ
しちゃうような
魅力的な匂いですッ
俺大好きですッ!!



オリーヴァさんの中…
ギユウギユウにキツくて…



あつたかくてヌルヌルで
凄く気持ち良いッ…

お前のチ○ポも凄く良いぞッ
もっと…私で感じてくれッ
私を…女として求めてくれッ



人間族の男が女にする様に
私に…もっと優しくッ…その…
甘えさせてくれッ♡

オッ…オリーヴァさんッ!!



!?

ぶッ♡



ぶんぶん♡♡

抱きしめられるの…
頭なでられるの気持ち良い…
妻く安心する…何故だ
こいつの方が体が小さいのに…

そうか…今私は好意を持った
男に女として優しく大切に
してもらっている事に
喜んでるんだ…

これ…
たまらないッ♡♡

もっとギュッとして♡
頭なでて♡♡

こんなに遅しくて強くて…
それなのに乙女なオリヴァさん
最高に可愛いですッ!!
可愛すぎますッ!!

はぁッ…はぁッ…
んんッ…♡♡私ッ…♡♡
もうイッてしまいたいッ♡♡

んッ…あうッ…俺も
もうイキそうですッ
出ちやいますッ

!?
オッ…
オリヴァさん!?

待って…ダメッ…
本当に俺もう出ちやいますッ
出ちやいますからッ…

出してッ♡
中に出して欲しいッ…♡
お前の子種…私の中にッ…♡
中に出してッ♡♡

私に…お前の
精液を出して
くれッ♥♥

んんんッ…
オリヴァさんッ…
あうッ…出ちゃうッ…

オリヴァさんの体温…
匂い…湿度…濃密な肉感に
包まれながら俺はオリヴァ
さんの中にとめどなく射精した…

事が終わっても
オリヴァさんは
俺を抱きしめ続けた…
そしてそのまま…
オリヴァさんは大きな
猫みたいになっていた…



昨夜あんな事があって
俺はオリヴァさんと
顔を合わせるのがちょっと
恥ずかしかったけれど

オリヴァさんは
とても機嫌が良かった

オリヴァさん
夕飯のリクエストとか
あります？

ん？そうだな
ちなみにお前は
何が食べたい？

そうですね…
最近肉が多かった
ので魚も良いですね

じゃあ私も♪
今晚は魚にしよう♪

おいそこッ!!!
ダラダラ訓練してるんじゃない!!! 本当の戦闘なら
一瞬の気の緩みが命取りに
なるんだぞ!!!

グ
ォ
ッ

とはいえ訓練はしっかり
厳しく行っているみたいです

そんな感じで
数日が過ぎた夜

今度は俺が
オリヴァさんの
部屋に呼ばれた

こんばんは
トッドです

おお…
鍵は開いている
入ってくれ

え!?
オリヴァさん!
その格好は…

い…いや…先日訓練後に
ここに駐屯している女兵士達の
会話が聞こえてきてな…
それでその…色々聞いてみたのだ…

うちの彼氏がさく
あんたのともも?



何の話だ?
男関係か?

あ!
オリヴァ教官
いえ…下世話な話
でして…あはは…



そうですか?
えっとですね…
私の彼氏がHの時いつも
私にエロい格好をして
欲しいって言ってます
ですね

興味津々

ふんふん!



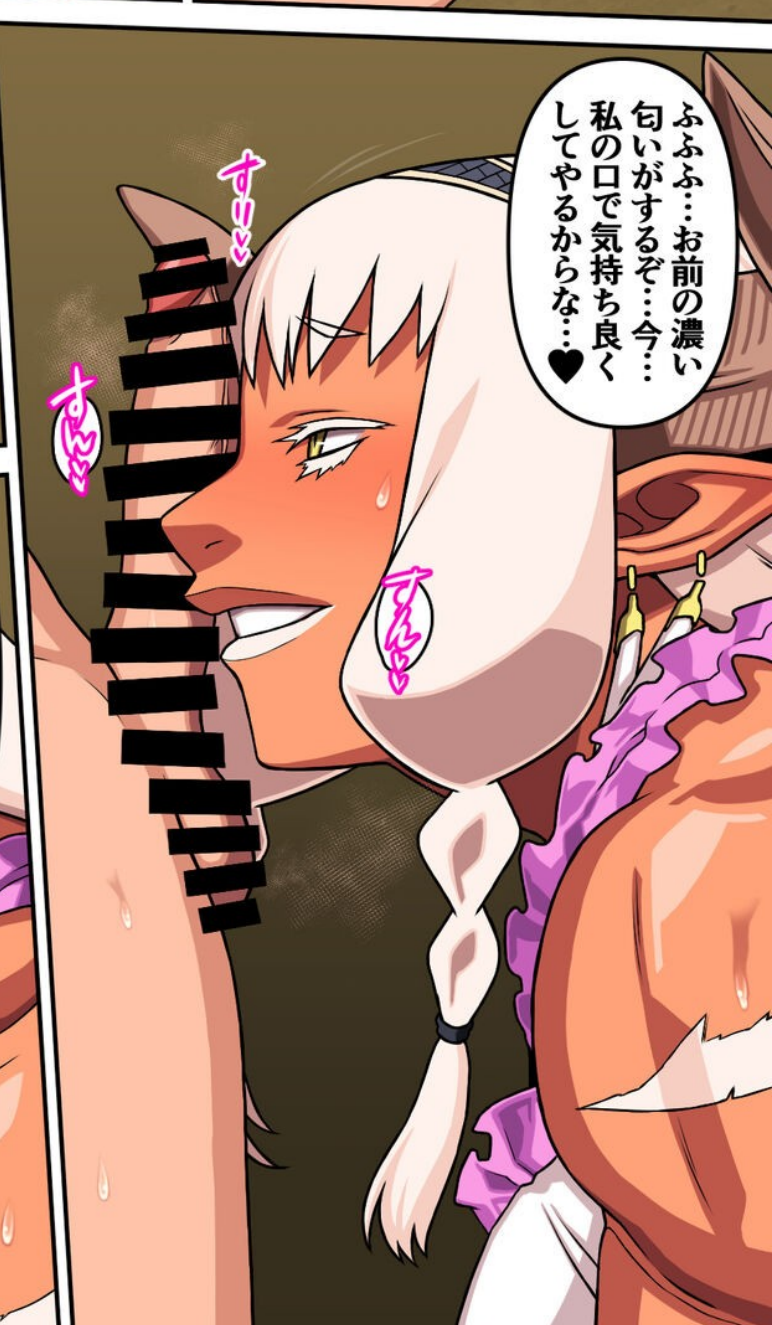
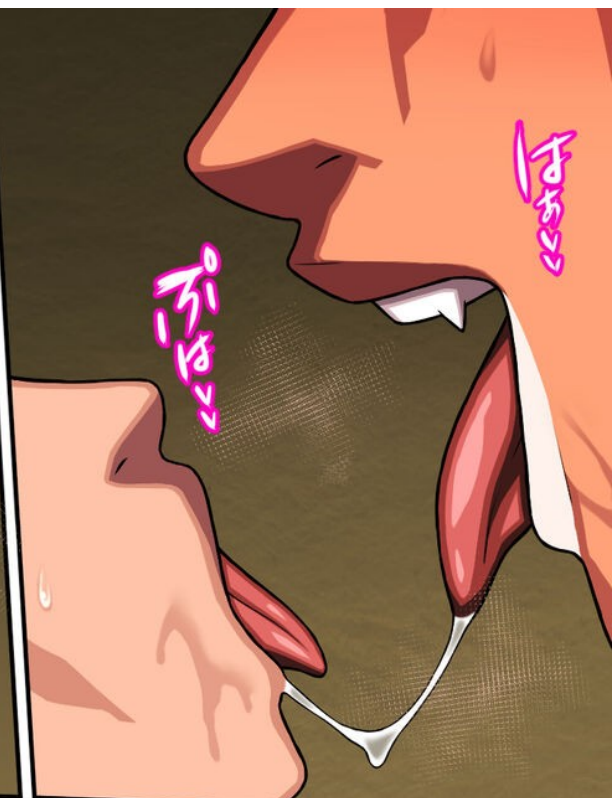
もい

は
ー
ん
!!

もい







オリヴァさんが俺の
チ○ポ咥えてるッ:
あのオリヴァさんの口が:
俺のチ○ポッ:

凄く不敬な気持ちなのに
めちやくちや興奮しちゃって
チ○ポギンギンに反り返る位
立っちゃってるッ:

大きな舌がチ○ポ全体を
こすり上げて気持ち
良すぎるッ:

こんなのすぐに
出ちゃうよッ!!

ダメッ:離して
オリヴァさんッ

出して良いゾッ
私が全部口で
受け止めてやるッ

俺:もう
出ちやいますッ:

あッ:
だめッ:出るッ:
出るッ:!!

んひいッ:!!!

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん
びゅん
びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん



んん~~~~♡♡



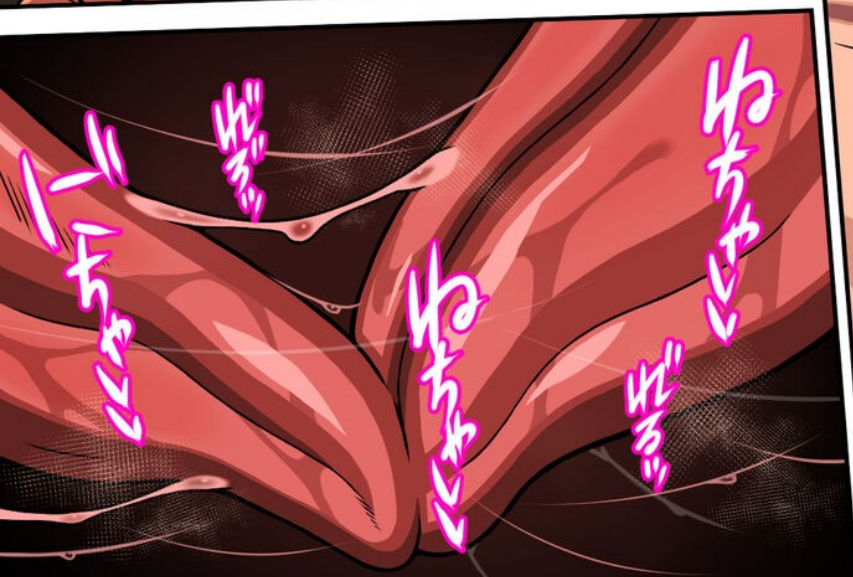
ああ…
オリーヴァさん…

ふふッ…どうだ？
お前の子種の味…たっぷり
味わわせてもらうぞ♡♡



んん…♡♡

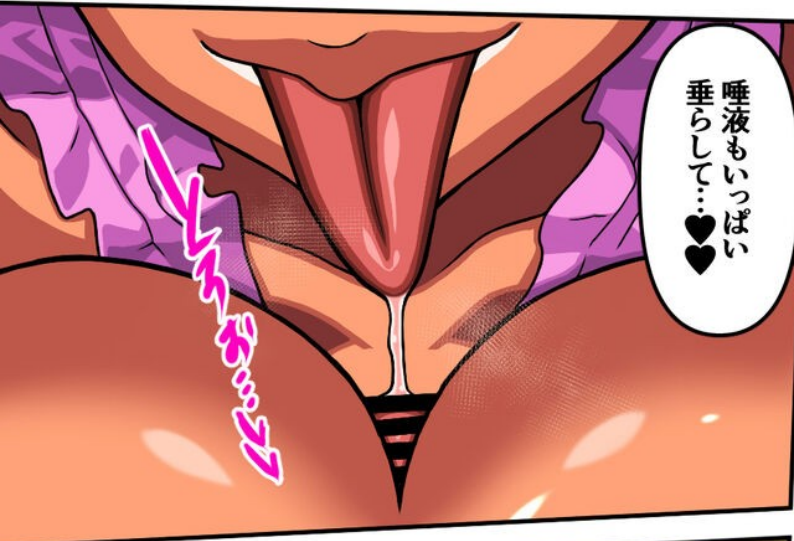
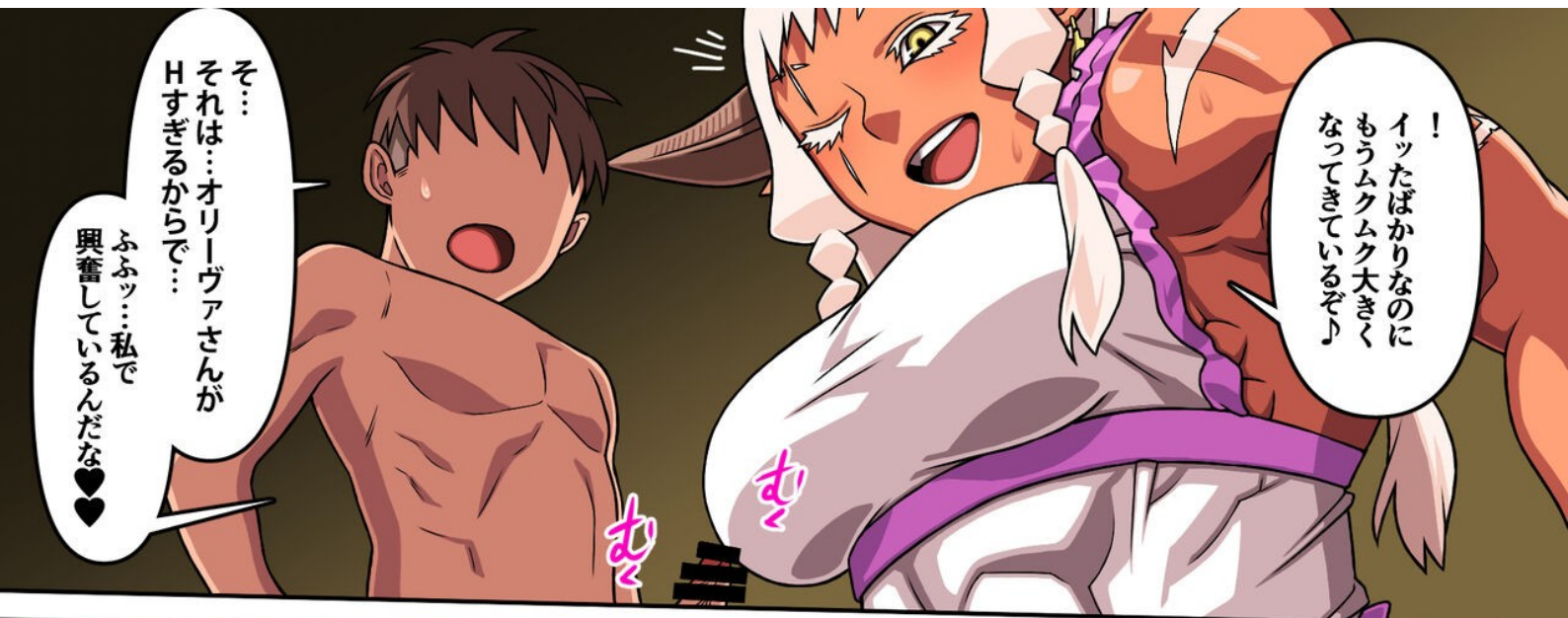
んむッ…

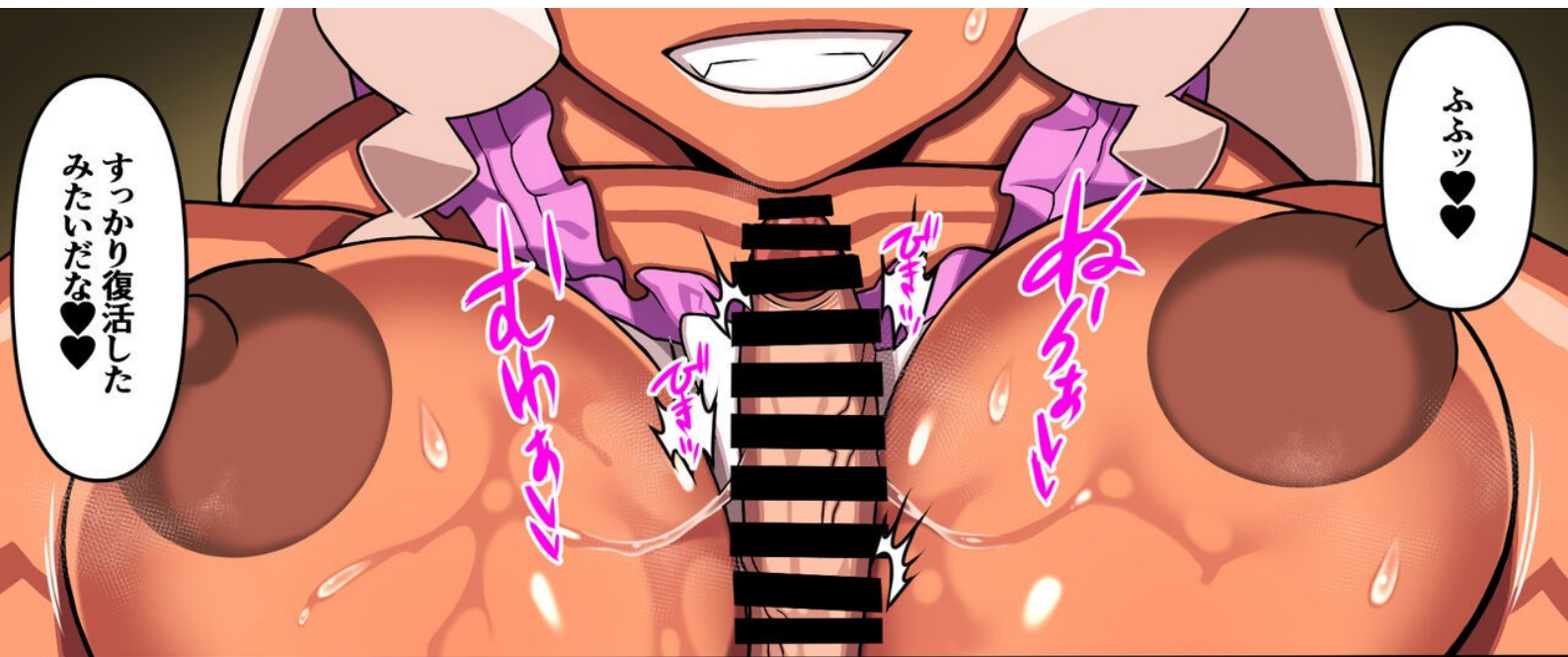


お前の事がどんどん
欲しくなっていく…♡♡

これがお前の種の匂い…味♡♡
とても濃くって…ゾクゾクゾクッ♡♡
私の中の女がどんどん目覚めていく
のを感じる…凄く興奮する♡♡

オリーヴァさん…





ふふッ♡♡

すっかり復活した
みたいだな♡♡



来て♡♡

トッド…♡♡



オッ…
オリヴァさんッ!!

あんッ♡♡



トッド…今度は私の事を
そのチ○ポで気持ち良く
してくれないか♡♡

その…人間族の女性を扱う様に
大事に愛おしく…今日も
私の事を女性として…
たくさん甘やかして欲しい…♡♡

オリヴァさん…

んっ♥♥んんっ♥♥♥
呼び捨てにされるのっ
凄く距離が縮まった感じが
して…嬉しいっ♥♥♥

本当の恋人みたい♥♥♥
胸がキュンキュンするっ♥♥♥

もっと言って♥♥♥
頭などでして…♥♥♥
いっぱい甘えさせて♥♥♥
私の体で楽しんで♥♥♥
私の匂いと味覚えてっ♥♥♥

オリーヴァ最高だよ…
可愛いよ…好きだっ…
大好きだっ…!!!

俺のっ…
俺のものに
したいっ!!!

んん~~~~っ♥♥♥

人間族の乙女心というものは
こういう感情なのかとオーガ族の
私がまさか思い知らされるなんて…

こんなに幸せを感じるなんて…
こいつの…こいつのものに…
私はこいつの女になりたいっ♥♥♥

俺のものにしたい…オーガ族の男にも
似た様な事を言われた事があるが
ぜんぜん違う…オーガ族の男は本当に
物の様に女を扱うがこいつはそうじゃない…

大切に愛おしく…
抱きしめられ頭を撫でられ
ると本当にドキドキし
同時に凄く安心する

私ッ…私ッ…
お前のものになりたいッ…
お前の女になりたいッ…

お前の女に
なりたいたッ♡♡



オリヴァッ…
めちやくちや
色っぽい…

めちやくちやエロい!!

もう出そうッ…
イキそうッ…

私もイキそうッ
出して…私の中に全部出してッ…
お前の女だとマーキングしてえッ♡♡



イクッ…出るッ…
俺の彼女にッ…
女になってッ…
女にするッ…
オリヴァッ!!

あッ♡♡あッ♡♡
なるッ♡♡

彼女になるッ♡♡
お前の女になるッ♡♡
マーキングされてイクッ♡♡
イグラッッ♡♡



はあ…はあ…
ふふ…さっきの告白…
私は本気になるぞ♥♥

はい…俺も本気で
こんなにカッコ良くて可愛い
オリヴァさんの事…
大切にしますッ!!

んふふッ♥♥♥
大切にしろよ♥♥♥
これからも沢山
お前に甘えるからな♥♥♥

は…はいッ!!

なあ…腕枕
してくれよ♥♥

はい

あと頭ポンポンも

はいはい

歴戦女戦士の ひきつり





■オリーヴァ

オーガ族の女戦士。

厳しい男性社会のオーガ族の中あって
最強の女性部隊を束ねた歴戦の猛者。

その強さは男性でも太刀打ち出来ず
ドラゴンを一人で倒した等の逸話もある。

「女の自分よりも弱いくせに男という理由だけで
何故自分が下に扱われなければいけないのか」
と圧倒的男性有利な部族の風習に納得できず
女性としては高い地位を獲得しているにも関わらず
部族から離れ人間族の駐屯地で指南役を務める事に。

人間族の風習の中で男女の格差も無く
穏やかな日々を過ごしていたオリーヴァだったが
普段自分の身の回りの世話を丁寧にしてくれて
悪からず思っているトッドにひよんな事で可愛いと言われる。
それまで戦いの中で生き部族の男性から軽視されて来た
彼女は生まれて初めてそんな事を言われて
ひどく動揺してしまうのだった。

ここは国境沿いの駐屯地
人間族とオーガ族の国の
境界に位置している

よし!!
今日の訓練は
これにて終了!!!

ありがとう
ございました!!

オリーヴァさん
今日も稽古
お疲れ様でした
これで汗を

おっ:
すまないな!

この人はオリーヴァさん
オーガ族の戦士だ

オーガ族には優秀な
女性だけの部隊があつて
その部隊にはどんな精鋭でも
歯が立たないと有名だった

その部隊を率いていたのが
このオリーヴァさんなのだ
なんとドラゴンを一人で
倒したなんて噂もある

俺はオリヴァさんの
身の回りの世話役を
任されてるトッド

オリヴァさんに憧れて
自分からこの役を
買って出たんだ

俺は辺境にある山と森に囲まれた
村の出身なんだけど
その村では時々魔物が:
時にはグリフィンなんかも現れて
家畜に被害が出たりしていた

だから俺も自警団に入ってたんだけど
ちゃんとした戦いの技術を
身に付けようと国の兵役に志願した

でも俺には戦いの才能が
全然無いみたいでこの
駐屯地に派遣されても
結局やらされたのは雑用ばかり

早くこっちにも
荷物運べよ

はい!

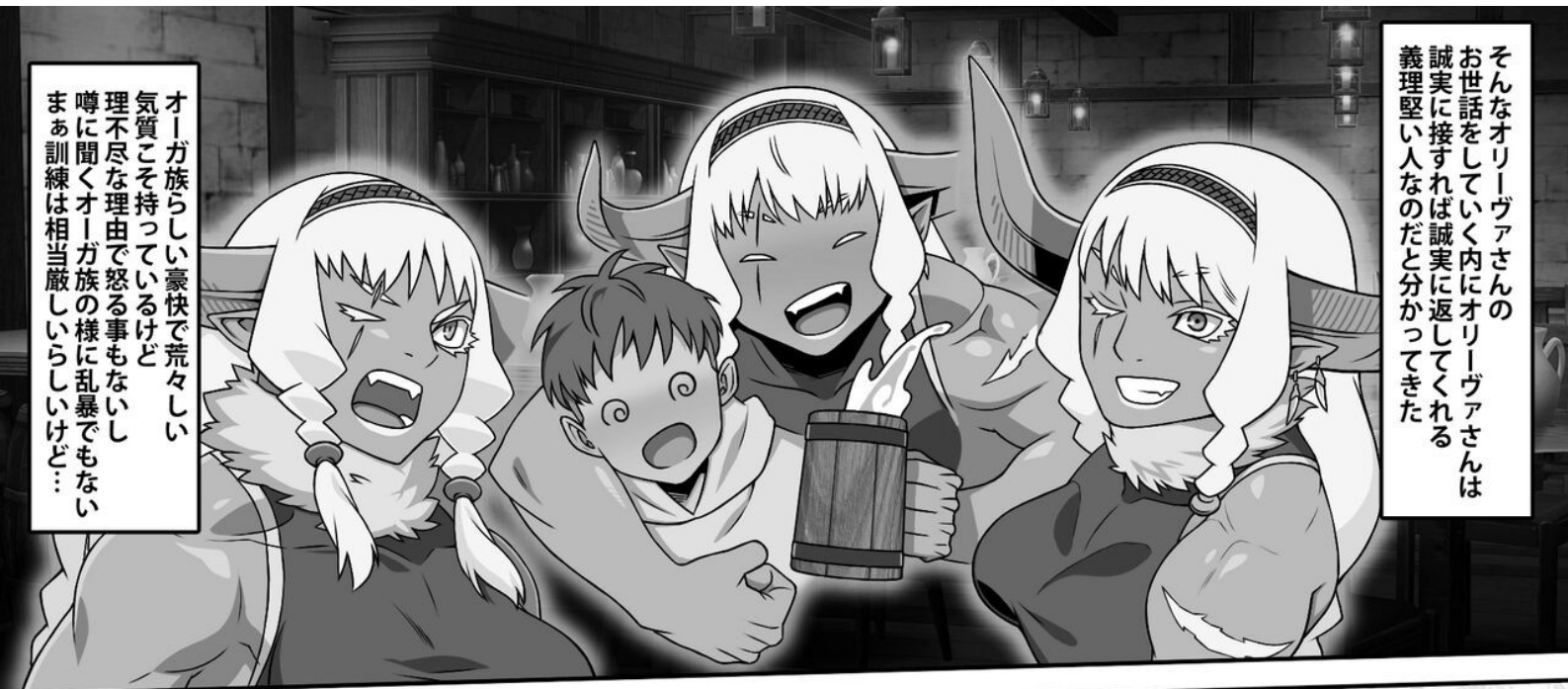
そんな時戦術指南として
やってきたのが
オリヴァさんだった

名の知られた戦士がやってきたという事で
皆が湧き立つ一方オーガ族は好戦的で
気性が荒いと有名だから怖がる人もいた

でも俺はオリヴァさんの
力強く気高い雰囲気
一気に引き寄せられたんだ

そんなオリヴァさんの
お世話をしていく内にオリヴァさんは
誠実に接すれば誠実に返してくれる
義理堅い人なのだと分かってきた

オーガ族らしい豪快で荒々しい
気質こそ持っているけど
理不尽な理由で怒る事もないし
噂に聞くオーガ族の様に乱暴でもない
まあ訓練は相当厳しいらしいけど……



そしてたまに目にする
普段の力強さとは違った
女性的な魅力にも俺はドキドキし
この人をとっても尊敬していた

暑い……



前から気になってたんですけど
オリヴァさんはどうして
ここに指南役に来ようと思
ったんですか？

ん？



いえ……
俺だってお会いする前から
オリヴァさんの
名前を耳にする事が
あったんですけど

そんなに有名なオリヴァさんなら
本国ならもっと何て言うか……
高い地位と言うか良い暮らしが
出来るはずじゃないかって思って

ああ……
そういう事か



!?

ドキッ



まあお前の言う事も分からなくはない…
何というか私もオーガ族の事は
誇りに思っているが風習で肌に
合わない部分もあってな

ちよつとその環境の外に
出てみたくなったという
感じかな？

へえ…



はははッ
だから雑用係に
されたと

……とまあ
カクカクシカジカで
兵役に参加したもの
戦いに向いてないらしくて



お前はどんなんだ？

え？

どういう経緯で
ここへ来たんだ？



えく…ッとですね…俺結構僻地の方の
山と森だらけの田舎村の出身なんですけど
たまにそこってグリフィンが出たりして

それで俺も自警団に
入ったりしてたんですよ
それで――

でもお前の仕事は丁寧で
痒いところにも手が届く
私はとても助かっているよ

本当ですか!!
俺嬉しいです!!

それにしてもオーガ族の
私の世話を希望するなんて
お前も変わった奴だよな
いくら女だといつても
人間族より体臭も濃いし
色気などもないだろうに

熊みたいな
ものだら

いや!そんな事
ないですよ!!
俺オリーヴァさんを
尊敬してますし

それにふとした時に
とても綺麗でその…
可愛いですし…!!

あつ…すいませんつい
生意気な事を言ってしまったて…
こんな言い方失礼でしたよね…

本当すいませんでした!!
部屋掃除してきますッ!!

!?
何?可愛い?
私が可愛いだと?

ヒキッ

...



「可愛い」だとう私が…？
そんな事生まれて初めて言われたな…
厳しい男性社会の我が部族…
男を立てるのが女の務めであり栄光…

今まで「お前は俺に相應しいや
俺の隣に置いてやる」なんかは
言われた事があったが
まるで装飾品になれと
言わんばかりだった…



何だ…この胸の奥が
ギューッと握りつぶされそうな
感覚…動悸も激しくなつて
息も少し苦しい…しかし…
嫌ではない…

これは…喜び？
私は今可愛いと言われて
喜びを感じているのか？



ただ女の私よりも弱い男に
そんな事を言われるのが納得いかず
相手にもしてこなかったが…

そんな私が可愛い…
可愛い…か…

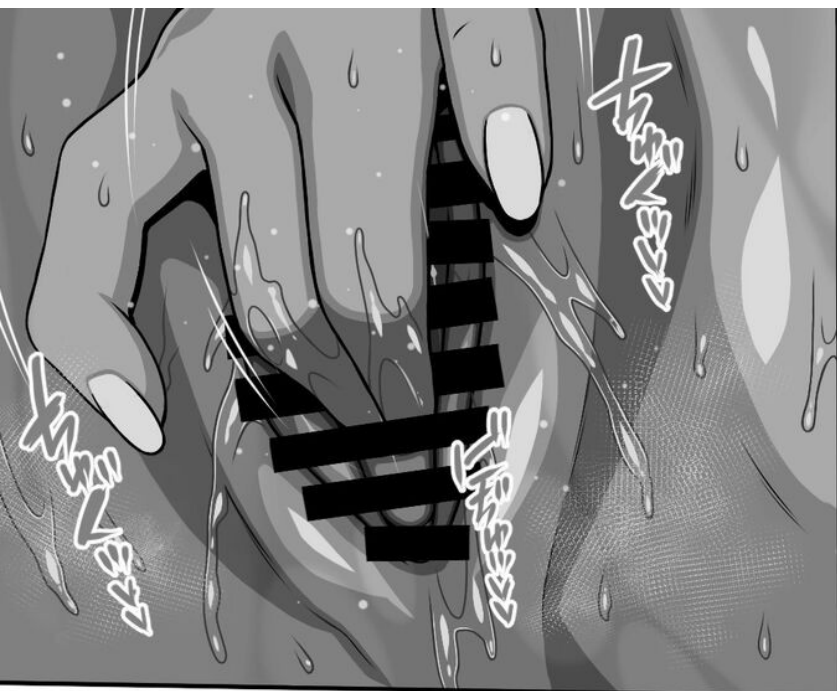
その夜――

ふうッ…ふうッ…
この高揚感ッ…戦いの時に
感じるものとも全然違うッ!!

自慰など普段は
しないのに…

むわち…むわち

あいつの言葉を何度も何度も
思い出してしまつて…
その度に気持ちが高ぶつて…



それにただの自慰なのに
こんなに感じるなんてッ…
体が喜んでるのかッ

可愛いと…女性として
魅力的と言われた事にッ
んッ…イクッ…またイクッ
しまッ

もう三回目なのにッ…
またッ…こんなに感じて
イクッ…

可愛い

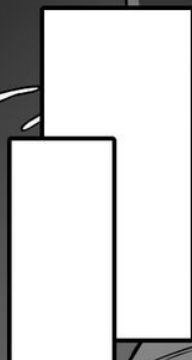
可愛い

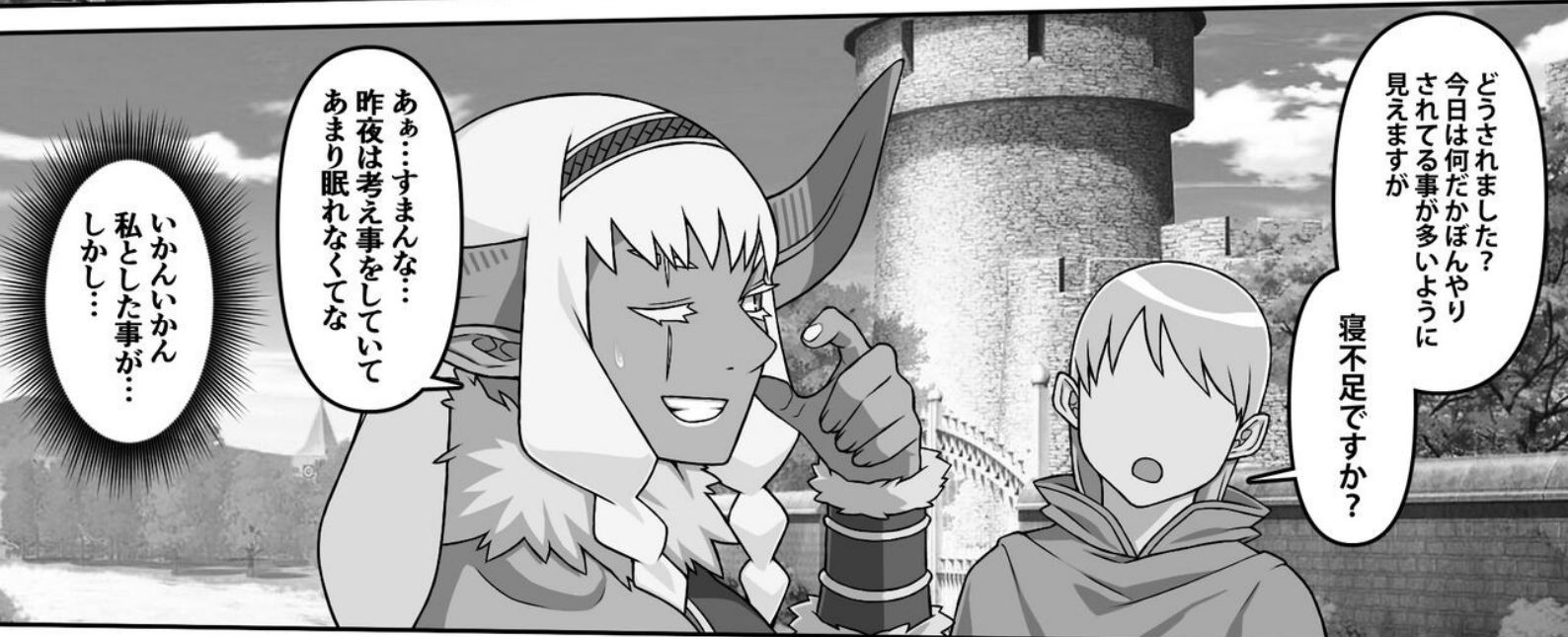
可愛い

可愛い

あッ
♥

ぶぐううッ♥♥♥





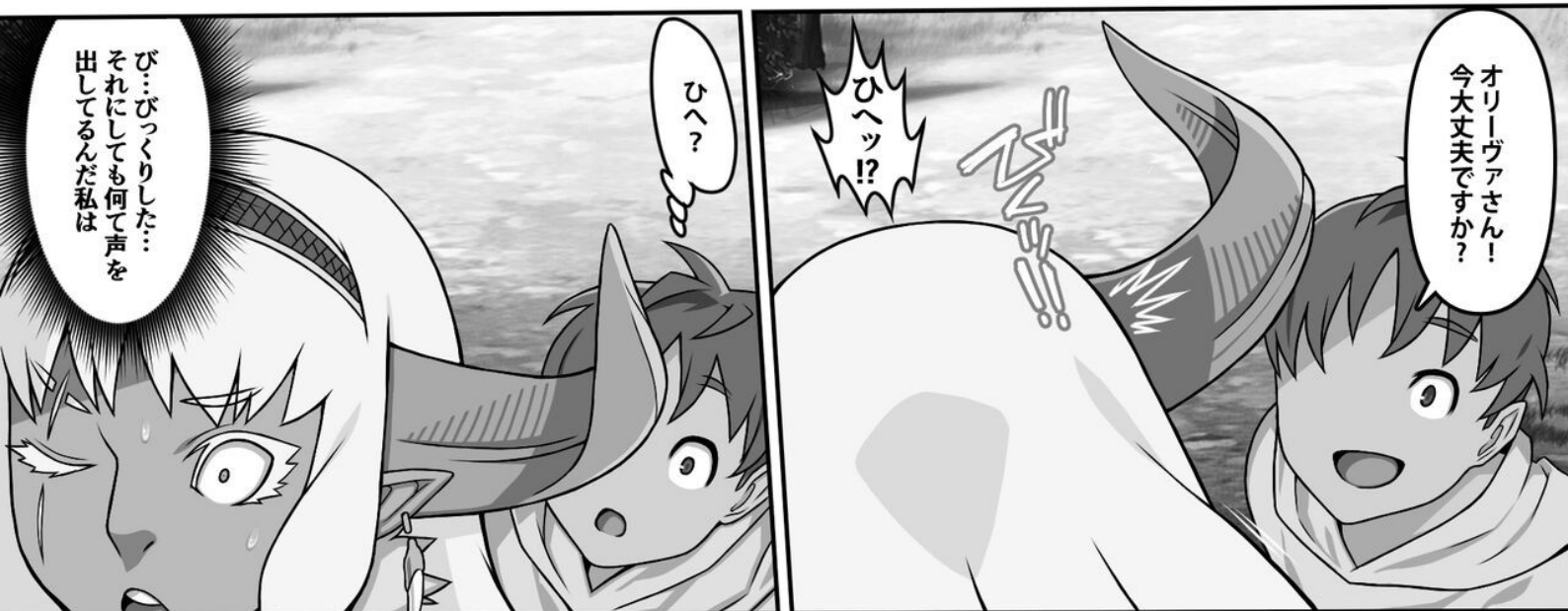


ダメだダメだ!!
今は訓練中だ
訓練に集中だ

ひふーッ

チッ...

チッ...



び...びっくりした...
それにしても何て声を
出してるんだ私は

ひへっ?

ひへっ!!

ズッ!!

オリヴァさん!
今大丈夫ですか?



どうした?

今晚のご飯何が
良いかと思いついて
何かリクエスト
ありますか?

そうだ!大きくて
良いイノシシが
捕れたそうですよ



その日の深夜――



はい？
どなたですか？

コソ

コソ



え…オリヴァさん
どうしたんですかその格好…

え…今鍵閉め…
オリヴァさん？



え？オリヴァさん？
どうしたんですか
こんな夜中に？
今開けますね

私だ…
ちよつと良いか？



ヒキッ

ヒキッ







嬉しいッ♥♥

わわッ

はっはっは



んむッ!?

はっはっは

はっはっは

んッ…



お前が…♥

お前が良いんだ♥♥

はっはっは



このまま…
抱いてくれ♥♥
私の事♥♥

オリヴァさん…
ほ…本当に俺なんかで
良いんですか?

はっはっは



オーガ族のセックスは
野性的でめちゃうくちや
激しかった

オリヴァさんは
激しく食べるように俺に
キスをし太い舌を
ねじ込んできた…



ギョッ

ギョッ



野性的に全身を
くまなく舐め回され…

これが
お前の味…

匂い…♡

凄く密度の高い肉圧…
オリヴァさんの体臭…
そして汗が俺を包みこんでいた…

乳首ッ

はひッ

むわあああ



最高ですッ!!

んんッ…ダメッ…
そこ…オーガ族は体臭が
強くてその…臭いからッ

そんな事無いですッ!!
俺オリヴァさんの
匂い大好きですッ!!
凄く良い匂いですッ!!



私…魅力的か?
綺麗か?可愛いかな?
はしたなくないか?

オリヴァさんッ
凄く魅力的ですッ
力強くて荒々しい所もあるのに
こんなに綺麗で可愛くて…



胸も吸ってくれッ♥♥♥
乳首噛んでッ♥♥♥

もっと強くッ♥♥♥

噛んでッ♥♥♥

んん♥♥♥



好き?
私の匂い好き?

なら…
もっと嗅いで♥♥♥
もっと舐めてえッ♥♥♥



私ッ：
良い匂い？
私の匂い好き？

本当に臭くない？

好き？



んんんんん♡♡♡



めちやくちや
良い匂いですッ!!
濃厚な甘ったるさに
汗の匂いが混じって

凄くチ○ポがムズムズ
しちゃうような
魅力的な匂いですッ
俺大好きですッ!!

オリヴァさんの中…
ギユウギユウにキツくて…

あつたかくてヌルヌルで
凄く気持ち良いッ…

お前のチ○ポも凄く良いぞッ
もっと…私で感じてくれッ
私を…女として求めてくれッ

人間族の男が女にする様に
私に…もっと優しくッ…その…
甘えさせてくれッ

オッ…オリヴァさんッ!!

!?

べッ
♡♡

ぶんぶんッ♡♡

抱きしめられるの…
頭なでられるの気持ち良い…
凄く安心する…何故だ
こいつの方が体が小さいのに…

そうか…今私は好意を持った
男に女として優しく大切に
してもらっている事に
喜んでるんだ…

これ…
たまらないッ♡♡♡

もっとギュッとして♡
頭なでて♡♡♡

こんなに遅しくて強くて…
それなのに乙女なオリヴァさん
最高に可愛いですッ!!
可愛すぎますッ!!

はぁッ…はぁッ…
んんッ…♡♡私ッ…♡♡
もうイッてしまいたいッ♡♡♡

んッ…あうッ…俺も
もうイキそうですッ
出ちやいますッ

!?
オッ…
オリヴァさん!?

待って…ダメッ…
本当に俺もう出ちやいますッ
出ちやいますからッ…

出してッ♡
中に出して欲しいッ…♡♡
お前の子種…私の中に…♡
中に出してッ♡♡♡

私に…お前の
精液を出して
くれッ♥♥

んんんッ…
オリヴァさんッ…
あうッ…出ちゃうッ…

オリヴァさんの体温…
匂い…湿度…濃密な肉感に
包まれながら俺はオリヴァ
さんの中にとめどなく射精した…

事が終わっても
オリヴァさんは
俺を抱きしめ続けた…
そしてそのまま…
オリヴァさんは大きな
猫みたいになっていた…



昨夜あんな事があって
俺はオリヴァさんと
顔を合わせるのがちよっと
恥ずかしかったけれど

オリヴァさんは
とても機嫌が良かった

オリヴァさん
夕飯のリクエストとか
あります？

ん？そうだな
ちなみにお前は
何が食べたい？

そうですね…
最近肉が多かった
ので魚も良いですね

じゃあ私も♪
今晚は魚にしよう♪

おいそこッ!!!
ダラダラ訓練してるんじゃない!!! 本当の戦闘なら
一瞬の気の緩みが命取りに
なるんだぞ!!!

とはいえ訓練はしっかり
厳しく行っているみたいです

そんな感じで
数日が過ぎた夜

今度は俺が
オリヴァさんの
部屋に呼ばれた

こんばんは
トッドです

おお…
鍵は開いている
入ってくれ





この前は夢中になって
私ばかりが気持ち良さを
求めてしまったからな…
今日は私が気持ち良く
してやろう…

え!?



ちょ…ちよつと
待って下さい
オリーヴァさんッ

今日は俺まだ体
拭いてなくて
汚いですからッ…



んん
~~~~~  
♥♥

んあぁあッ!!

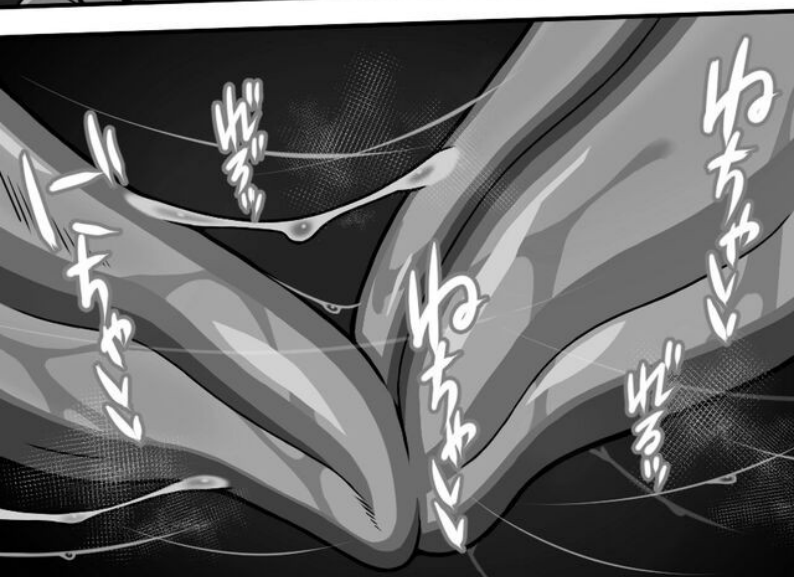


ふふふ…お前の濃い  
匂いがするぞ…今…  
私の口で気持ち良く  
してやるからな…♥

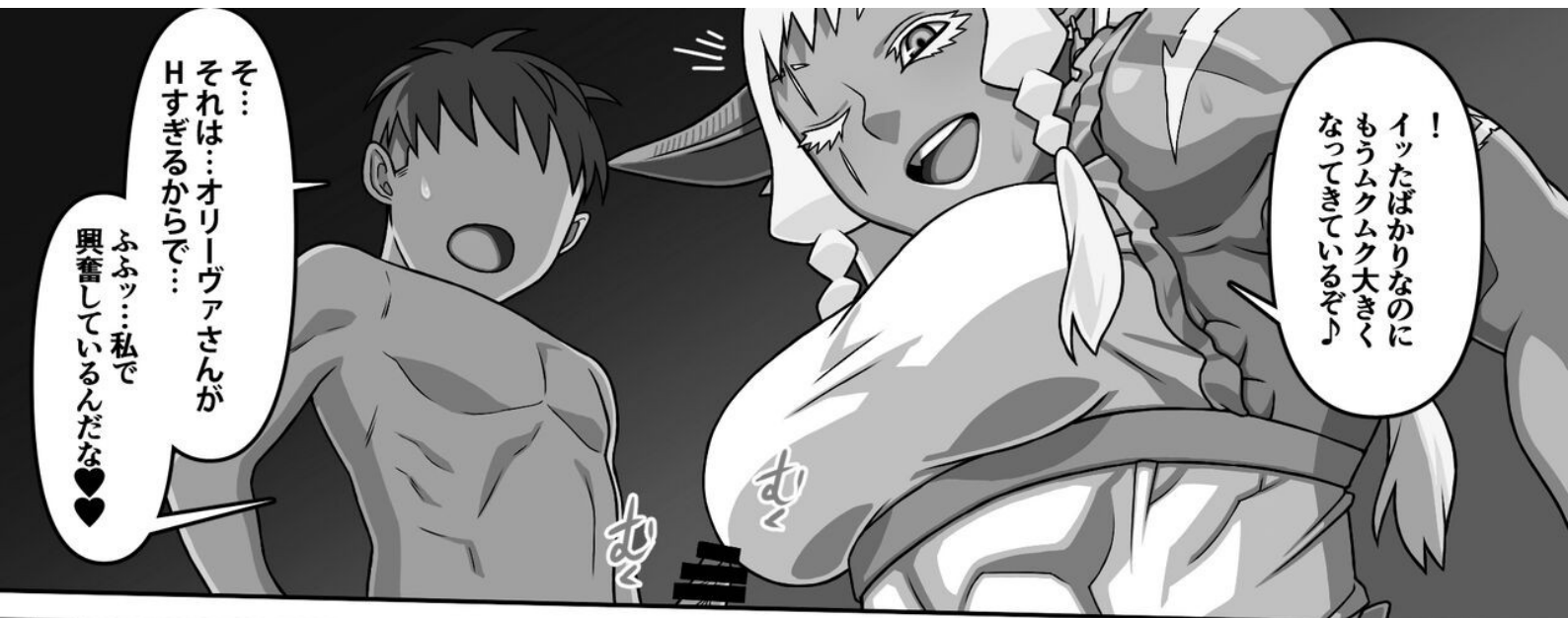








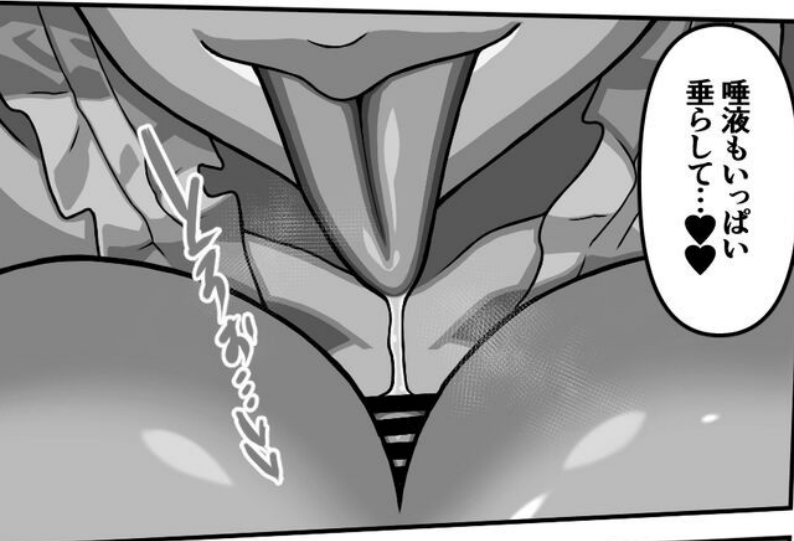




！  
イッたばかりなのに  
もうムクムク大きく  
なってきたぞ！

そ…  
それは…オリヴァさんが  
Hすぎるからで…

ふふッ…私で  
興奮しているんだな♥♥

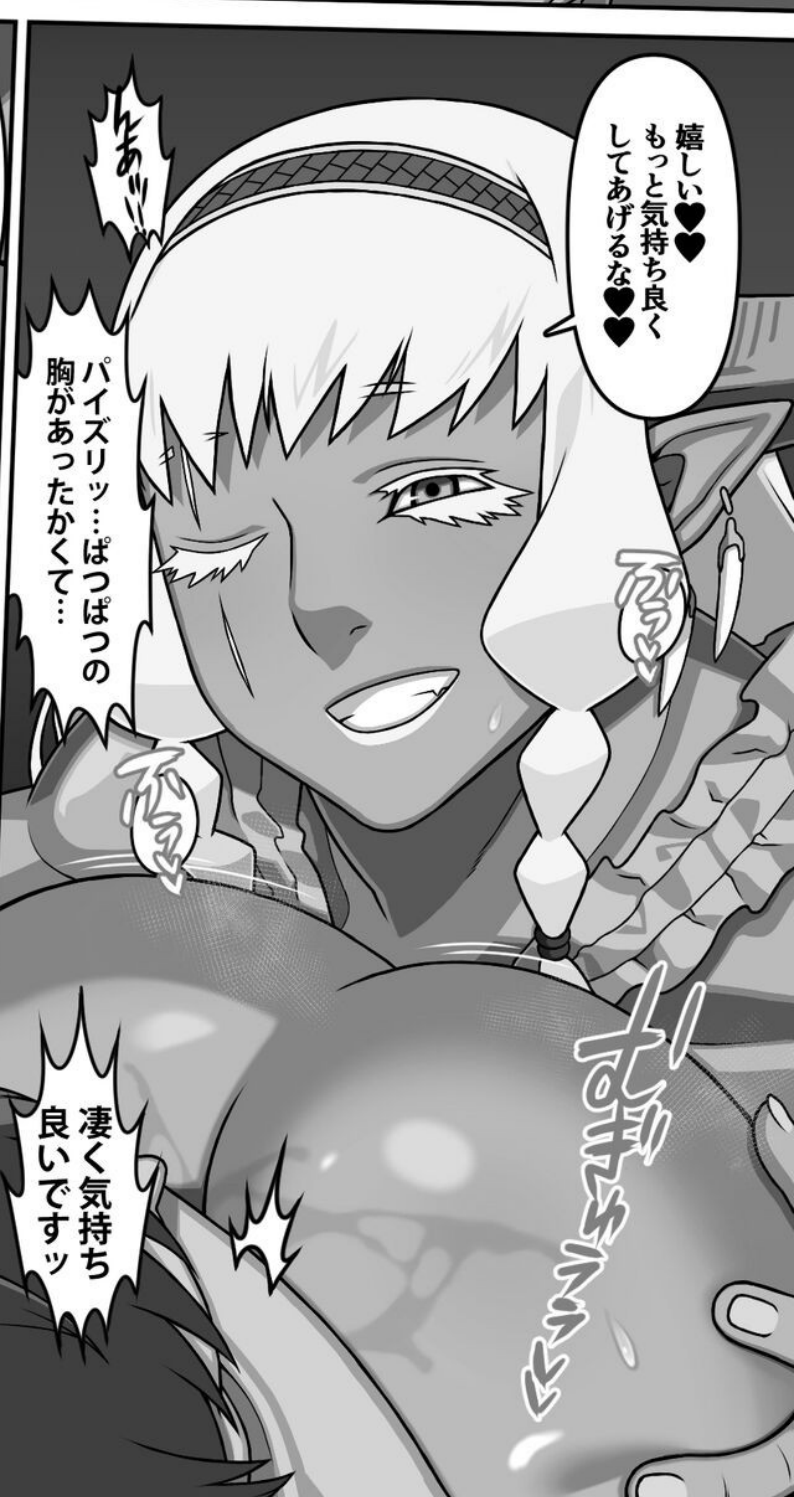


唾液もいっぱい  
垂らして…♥♥



ふふッ♥♥私の唾液と  
チ○ポ汁で凄くいやらしい  
匂いだぞ♥♥

オリヴァさんッ…  
それッ…エロすぎですッ！！

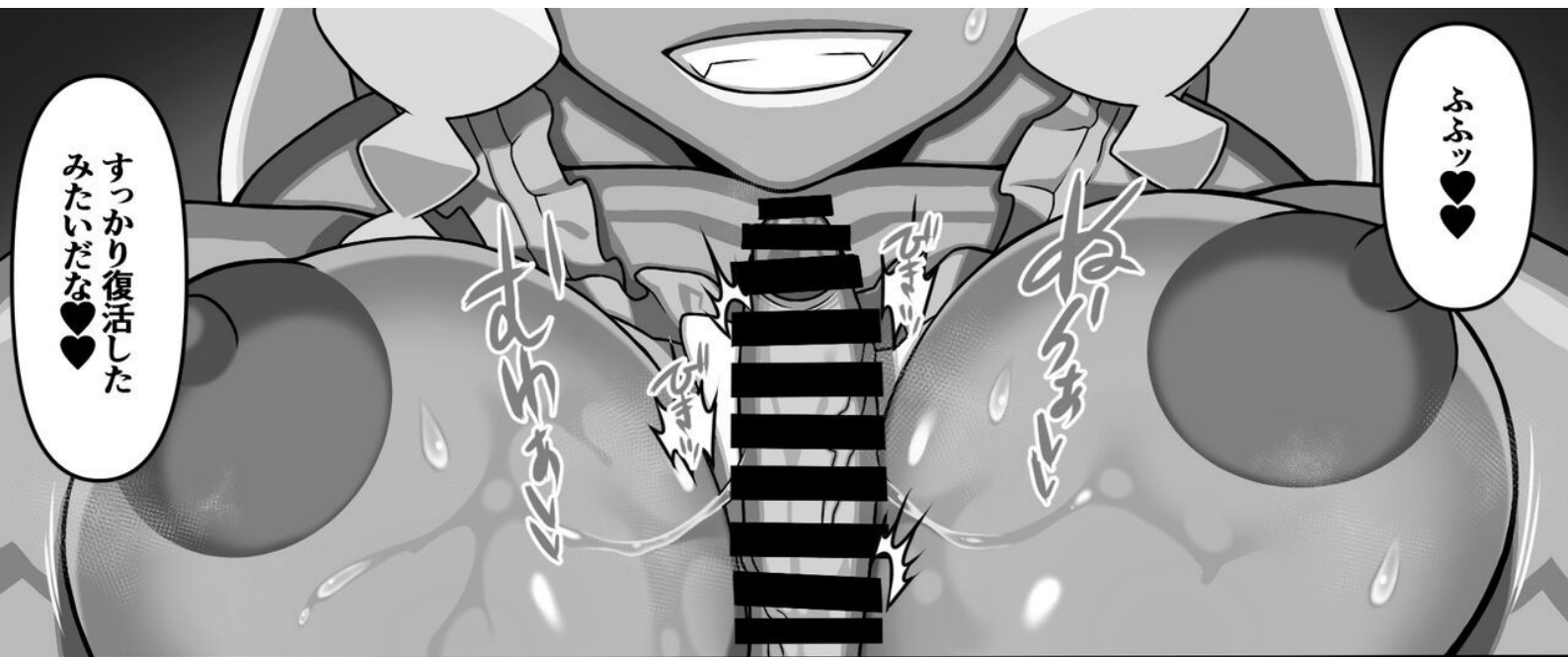


嬉しい♥♥  
もっと気持ち良く  
してあげるな♥♥

パイズリッ…ぱつぱつの  
胸があったかくて…

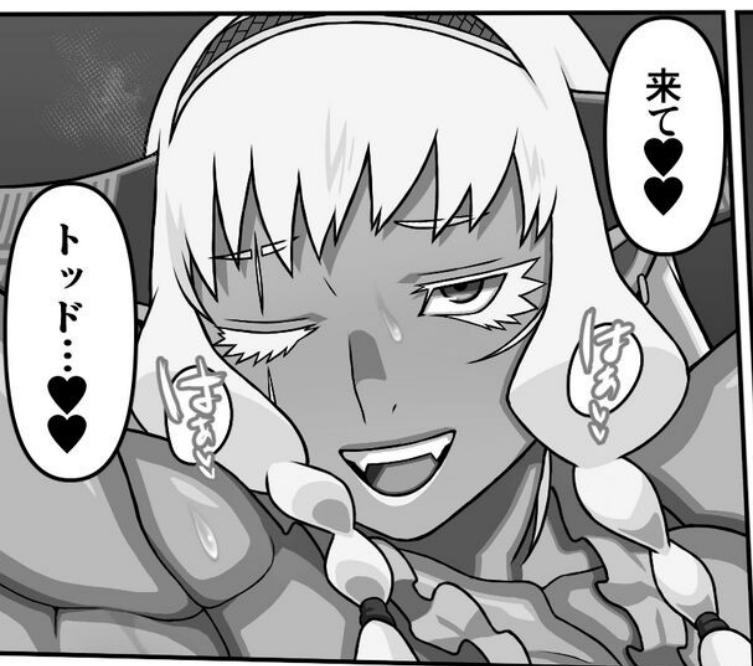
凄く気持ち  
良いですッ





ふふッ♥♥♥

すっかり復活した  
みたいだな♥♥♥



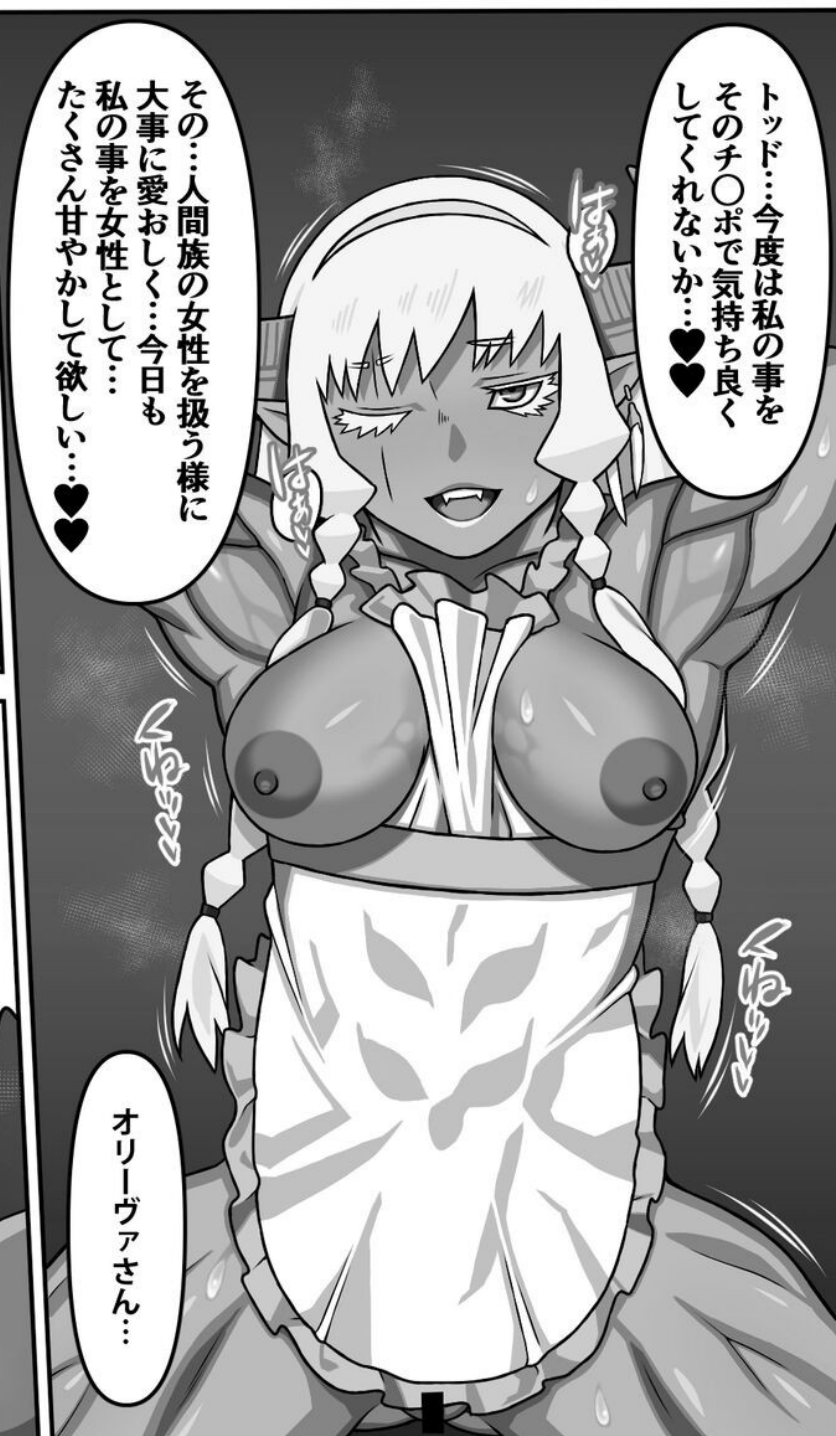
来て♥♥♥

トッド…♥♥♥



オッ…  
オリヴァさんッ!!

あんッ♥♥♥



トッド…今度は私の事を  
そのチ○ポで気持ち良く  
してくれないか…♥♥♥

その…人間族の女性を扱う様に  
大事に愛おしく…今日も  
私の事を女性として…  
たくさん甘やかして欲しい…♥♥♥

オリヴァさん…





オリヴァさんの中  
凄く熱くてヌルヌルして  
めちやくちや気持ち良いです！

それにほっぺ…耳まで  
真っ赤にしてるオリヴァ  
さんの顔…  
凄く可愛いです！！

んっ♡もっと♡  
もっと恋人にするみたいに  
いっぱい甘えさせて♡♡

こんな頼みお前に  
しか出来ない…  
いや…お前に甘え  
たいんだっ♡♡

こ…恋人みたいに…  
恋人…っ…

オリヴァッ…  
最高だよッ…  
すっごく可愛いよッ！！

!?

普段の力強さも良いけど  
こういう姿もとっても  
魅力的で最高に可愛いよ！！



んっ♥♥んんっ♥♥♥♥  
呼び捨てにされるのっ  
凄く距離が縮まった感じが  
して…嬉しいっ♥♥♥♥

本当の恋人みたい♥♥♥♥  
胸がキュンキュンするっ♥♥♥♥

もっと言って♥♥♥♥  
頭などでして…♥♥♥♥  
いっぱい甘えさせて♥♥♥♥  
私の体で楽しんで♥♥♥♥  
私の匂いと味覚えてっ♥♥♥♥

オリーヴァ最高だよ…  
可愛いよ…好きだっ…  
大好きだっ…!!!

俺のっ…  
俺のものに  
したいっ!!!

んん~~~~っ♥♥♥♥

人間族の乙女心というものは  
こういう感情なのかとオーガ族の  
私がまさか思い知らされるなんて…

こんなに幸せを感じるなんて…  
こいつの…こいつの…  
私はこいつの女になりたいっ♥♥♥♥

俺のものにしたい…オーガ族の男にも  
似た様な事を言われた事があるが  
ぜんぜん違う…オーガ族の男は本当に  
物の様に女を扱うがこいつはそうじゃない…

大切に愛おしく…  
抱きしめられ頭を撫でられ  
ると本当にドキドキし  
同時に凄く安心する



私ッ…私ッ…  
お前のものになりたいッ…  
お前の女になりたいッ…

お前の女に  
なりたいたッ♥♥



オリヴァッ…  
めちやくちや  
色っぽい…

めちやくちやエロい!!

もう出そうッ…  
イキそうッ…

私もイキそうッ

出して…私の中に全部出してッ…  
お前の女だとマーキングしてえッ♥♥



イクッ…出るッ…  
俺の彼女にッ…  
女になってッ…  
女にするッ…  
オリヴァッ!!

あッ♥♥あッ♥♥  
なるッ♥♥

彼女になるッ♥♥  
お前の女になるッ♥♥  
マーキングされてイクッ♥♥  
イグラッッ♥♥





はあ…はあ…  
ふふ…さっきの告白…  
私は本気になるぞ♡♡

はい…俺も本気で  
こんなにカッコ良くて可愛い  
オリヴァさんの事…  
大切にしますッ!!

んふふッ♡♡  
大切にしろよ♡♡  
これからも沢山  
お前に甘えるからな♡♡

は…はいッ!!

なあ…腕枕  
してくれよ♡♡

はい

あと頭ポンポンも

はいはい